

く り 【品種】丹沢、筑波、石鎚、ぼろたん

目標収量：300kg/10a

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
生育	発芽期			果実肥大期 収穫期									
	開花期					落葉期							
管理作業	剪定 →	草刈				草刈	草刈	← 防除 →		礼肥		← 剪定	基肥
						実肥							

栽培の要点

1. 低樹高栽培の実施
2. 病虫害防除の徹底

栽培の手引き

1. 品種

(1) 奨励品種

	早生	中生	晩生
基幹品種	丹沢	伊吹	筑波、石鎚
補助品種		ぼろたん	利平
試作品種			美玖里

(2) 品種構成

丹沢50%、伊吹10%、筑波20%、石鎚20%

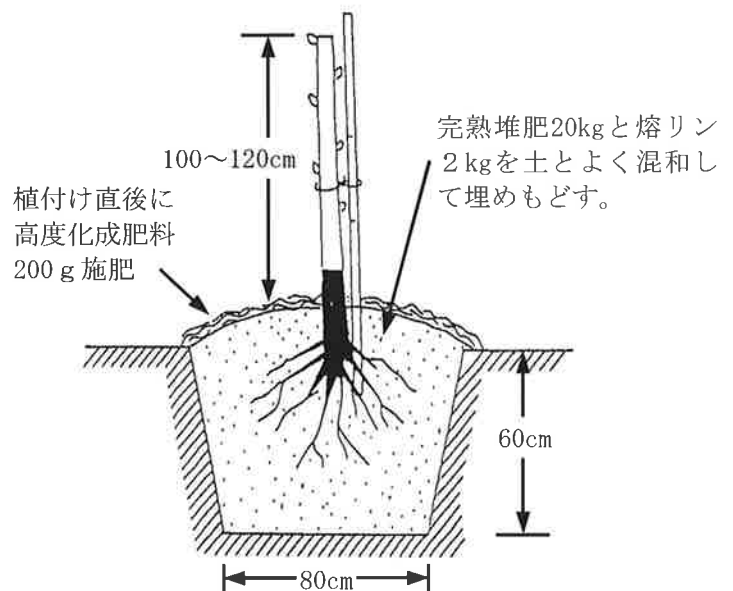
2. 植え付け

(1) 植え付け方法

- ① 幅80~100cm、深さ50~60cmの溝を掘り、埋め戻し、その上に苗木を植え付ける。

(2) 植栽距離は4.5×4.5mの正方形植えとする(49本/10a)

植付け方法



3. 受粉と生理落果

(1) 混植割合

- ① 自家受粉性が低いため開花期の合致した品種を混植する
- ② 受粉樹の距離は5～10mで効果が安定する

(2) 生理落果の原因と対策

- ① 早期落果（6月下旬～7月下旬）
 - ・ 花芽分化期からの栄養状態が悪く、雌花の発育不良
 - ・ 日照不足・着果過多により果実への養分供給が不足
 - ・ 病虫害の被害
- ② 後期落果（8月以降）
 - ・ 不受精によるものが多い
- ③ 防止方法
 - ・ 適正着果と日照量の確保が重要で、剪定時における適正結果枝本数の維持と低樹高化による受光体勢の改善

4. 収穫

(1) 収穫時期

毬が自然に落下する時期が完熟期であるが、品種によっては落果状況が以下のように異なる。

- ① 毬が裂開し果実が離脱落果する品種（石鎚、銀寄など）
- ② 毬の中に入ったまま落果する品種（筑波など）
- ③ 両方の性質を持った品種（丹沢、伊吹、森早生など）

(2) 収穫時の留意点

- ① 収穫期の気温
 - ・ 早生種は果実温の低い午前中に収穫する
 - ・ 収穫した果実は長時間コンテナに入れておくと高温となり、著しく品質が低下する。
- ② 果実の汚れ防止
 - ・ 雨後に収穫しなければならない場合は、布等で泥や水分を拭き取ってから出荷する。

(3) 粗選果の方法

病虫害果、裂果、未熟果、しわ果、腐敗果、コオロギ食害果等を取り除く。

5. 整枝剪定

(1) クリ樹の特性

- ① くりは陽樹であり、樹冠内部等陽の当たらない枝は枯死する
- ② 果実の結果習性は日当たりのよい、充実した結果母枝の先端部分に花芽を形成する

(2) 変則主幹形からの低樹高仕立法

- ① 植栽時
苗木は樹高80cm～100cmの高さで、充実した芽を3芽以上残して切り返す。
- ② 2～4年生
主幹形仕立てとし、主枝候補枝は分岐角度の広い枝を選び、主枝候補の間隔

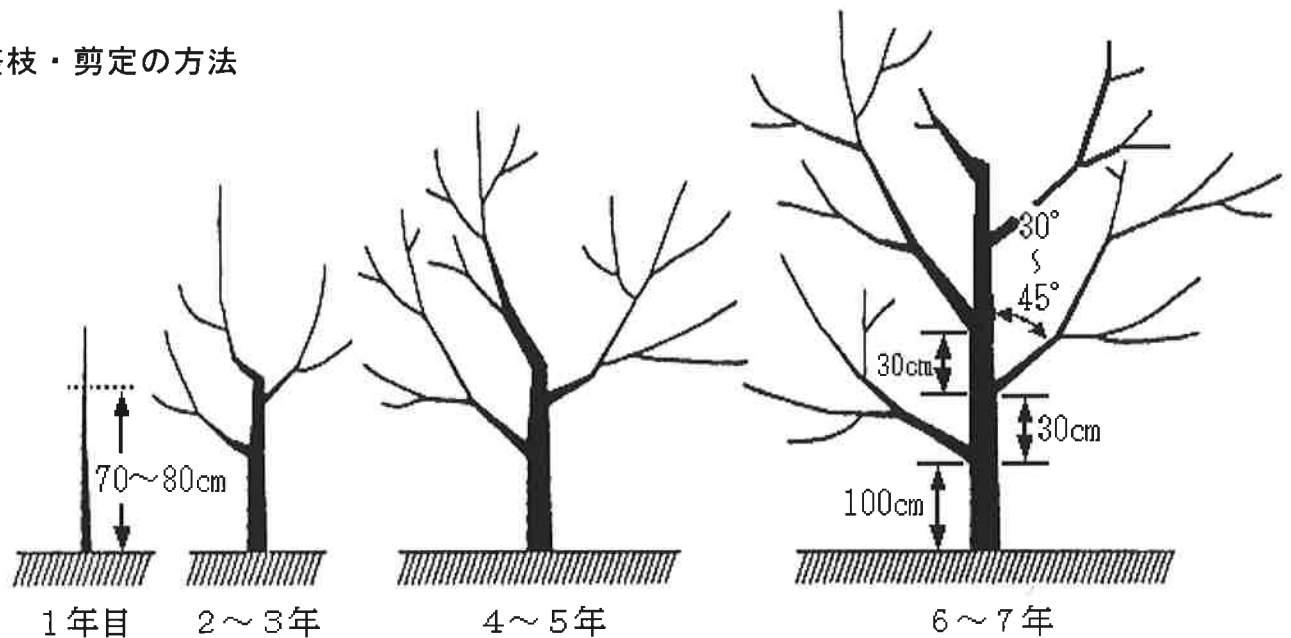
は車枝とならないよう30cm以上あける。

主幹の先端は強く切り返し、主枝候補枝は、やや弱めに切り返す。

③ 5年生以降の整枝剪定

- ・ 主枝候補枝も多くなり樹冠内部が混み合ってくるため、枝の方向、角度、上下の間隔の良いものを選び主枝3～5本を育成する。
- ・ 樹齢が進むにつれ徒長枝や発育枝が多くなるので、主枝候補以外の太枝は早めに間引く。
- ・ 心抜きは樹高が4～5mとなり、主枝がほぼ決定した段階で行う。方法は地上2m前後まで一挙に切り戻す。目標の主枝数は4～5本とし、着果させながら主枝の育成を図る。

整枝・剪定の方法



6. その他の管理対策

(1) 風害対策

- ① 防風樹種はクロマツ、スギなどが良い。
- ② 防風林の設置方法
 - ・ くり樹の日照を阻害しない程度に、くりとの距離を確保する
 - ・ 早春、または晩秋に植栽し、株間は0.5～1.0m間隔で、一条、または二条植えとする
 - ・ 防風林の高さは6～7mとする

(2) 凍害対策

- ① 凍害を受けやすい地形での開園は避ける
 - ・ くぼ地や谷間で土壤水分の多い園
 - ・ 南東に面した園
 - ・ 傾斜地の下部の園
 - ・ 排水の悪い園

〔く り-4〕

施肥基準

3～4年生

(kg/10a)

肥料名		総量	基肥 (11月)	実肥 (6月下)	礼肥 (9月下)
B B 6 6 6 号		40	40		
B B 5 5 0 号		40		20	20
成分量	チ ッ ソ	12.4	6.4	3.0	3.0
	リンサン	8.4	6.4	1.0	1.0
	カ リ	14.4	6.4	4.0	4.0

7年生以上

(kg/10a)

肥料名		総量	基肥 (11月)	実肥 (6月下)	礼肥 (9月下)
B B 6 6 6 号		80	80		
B B 5 5 0 号		50		30	20
成分量	チ ッ ソ	20.3	12.8	4.5	3.0
	リンサン	15.3	12.8	1.5	1.0
	カ リ	22.8	12.8	6.0	4.0

病虫害防除

対象病虫害	薬剤名	安全使用基準			備考
		希釈倍率等	収穫前日数 (～まで)	使用回数 (以内)	
カイガラムシ類	マシン油乳剤95	12～14倍	—	—	12～3月
クリイガアブラムシ モモノゴマダラノメイガ	エルサン乳剤	1,000倍	14日	4回 (乳剤・粉剤の合計)	200～ 700L/10a
クリイガアブラムシ モモノゴマダラノメイガ	エルサン粉剤2	6kg/10a 4～6kg/10a			
モモノゴマダラノメイガ	フェニックス フロアブル	4,000倍	前日	2回	200～ 700L/10a
実炭疽病	ベンレート水和剤	2,000～ 3,000倍	裂果前(但し 収穫14日前)	4回	200～ 700L/10a
クリシギゾウムシ	アグロスリン水和剤	1,500～ 3,000倍	7日	5回	200～ 700L/10a
カイガラムシ クリシギゾウムシ	モスピラン水溶剤	4,000倍	7日	3回*但し 樹幹注入は1回	200～ 700L/10a

〔く り-5〕

カミキリムシ類	トラサイドA乳剤	100~200倍	裂果前~収穫14日	4回	樹幹部に十分散布
クリシギゾウムシ クリタマバチ	アディオソ乳剤	2,000倍	14日	5回	200~700L/10a